

平成 28 年度 第 2 回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成 28 年 11 月 7 日 (月)  
開会 午前 10 時 00 分 閉会 午前 12 時 00 分
- 2 場 所 志布志市役所 本庁 2 階 庁議室
- 3 報 告 生徒指導関係について
- 4 協議内容  
(1) 全国学力・学習状況調査の結果分析について  
(2) 大学と連携したタブレット端末の活用について  
(3) コミュニティ・スクールの取組状況と今後について  
(4) 小中一貫教育の取組状況と今後について  
(5) その他
- 5 出席者 (出席構成員)
- |              |       |
|--------------|-------|
| 志布志市長        | 本田修一  |
| 教育委員長        | 松原治美  |
| 教育委員         | 飯野直子  |
| 教育委員         | 樽野眞一  |
| 教育委員         | 島津陽亮  |
| 教育長          | 和田幸一郎 |
| (事務局)        |       |
| 副市長          | 外山文弘  |
| 副市長          | 岡野 正  |
| 教育総務課長       | 溝口 猛  |
| 教育総務課長補佐     | 鎌下秀樹  |
| 学校教育課長       | 福田裕生  |
| 学校教育課参事兼指導係長 | 福留健之  |
| 学校教育課参事      | 加藤淳一  |
| 学校教育課参事      | 梶原 淳  |
| 学校教育課長補佐     | 江川一正  |
| 生涯学習課長       | 樺山弘昭  |
| 総務課長         | 武石裕二  |
| 総務課長補佐       | 岡崎康治  |
| 総務課人事厚生係長    | 黒石直也  |

## 6 会議の経過

午前 10 時 00 分 開会

### ○ 開会

【岡崎総務課長補佐】 皆様御起立ください。

ただいまから、平成 28 年度第 2 回志布志市総合教育会議を開催します。一同礼。御着席ください。

改めまして、本日進行を務めさせていただきます総務課長補佐の岡崎でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、御多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、本田修一市長が挨拶を申し上げます。

### ○ 市長あいさつ

【本田市長】 本日は、お忙しい中、第 2 回総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から教育行政の推進につきまして、御理解と御協力を頂いておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます。

さて、本年度は 6 月に第 1 回目の総合教育会議を開催いたしまして、「タブレット導入、ICT 支援員配置について」「コミュニティ・スクールモデル校について」「小・中一貫教育の研究について」を議題とし、確かな学力の定着に向けた取り組みとして、委員の皆様方と議論させて頂いたところでございます。

その後、9 月下旬には「全国学力・学習状況調査」の結果も公表されたところで、改めて学力向上に向けた取り組みが急務な課題であると感じたところです。

本日は、「全国学力・学習状況調査」の結果について分析を行いまして、更なる学力向上に向けた取り組みとして、タブレット端末を活用した大学との連携を図る事業の取り組みと、これまで取り組みを進めています、コミュニティ・スクールモデル校と小・中一貫教育の現在の取り組み状況や今度どのようにこの制度を活用した取り組みが必要であるか、委員の皆様方と十分に意見交換を行い、より効果的な取り組みにして行きたいと思っております。

また、児童生徒の学力の向上は勿論のこと、授業の改善、基本的  
生活習慣の確立、家庭の協力、教育環境の見直しなど、様々な取り  
組みが相互に作用して、学校の教育力の向上が図られると思います。  
教育力の向上に向けた活発な取り組みが、結果として児童生徒の学  
力の向上につながるものと考えております。

本日は皆様方の忌憚のない御意見いただき、実りある総合教育会  
議にさせていただきます事をお願い申し上げまして、私の挨拶といた  
します。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○ 報告

【岡崎総務課長補佐】 続きまして、会次第3に入りますが、本総合教育会議は、公  
開を原則としておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する  
法律第1条の4第6項に、「個人の秘密を保つ必要があると認めると  
きは、この限りではない。」と規定がございます。従いまして、会次  
第3については、非公開といたします。

#### ○ 協議

【岡崎総務課長補佐】 それでは、会次第4、協議に入ります。

協議の進行につきましては、志布志市総合教育会議設置要領第4  
条第4項の規定に基づきまして、市長が務めることになっておりま  
すので、本田市長よろしくお願ひいたします。

【本田市長】 それでは、協議に入りたいと思います。

1番目、全国学力・学習状況調査の結果分析について、説明をお  
願ひします。

【福田学校教育課長】 それでは、全国学力・学習状況調査の結果分析について、説  
明をいたします。

資料の3ページをお開きください。本年4月19日に小学校6年  
生・中学校3年生で学力・学習状況調査は実施されておりますので、  
平成27年度の取り組みが反映された学力結果となっております。

まず、上段の表をご覧ください。小学校の平均正答率が記された  
ものです。小学校につきましては、国語A・算数Aの問題で全国平  
均に近づいてきている状況が見て取れます。ただ、国語も算数もB  
問題については、依然全国との差がある状況となっております。

同じく3ページの中段に中学校の正答率があります。中学校は全  
国との差が、国語のAでマイナス4.8、国語Bではマイナス7.3、

数学 A ではマイナス 8.7、数学 B ではマイナス 7.6 という具合に、全国との差がかなり顕著であるという状況です。

4 ページをご覧ください。これは、年度ごとの推移を見たものです。小学校の推移ですが、平成 27 年、28 年の比較をしてみますと、国語の A・B・算数の B が差を縮めていることがわかると思います。

その下中学校の推移ですが、平成 27、28 年度で見てください。国語 A は昨年よりも幾分差を縮めましたけども、国語 B・数学 A・B 共に差が開いている状態が見られると思います。内容の詳細については、担当の加藤が説明いたします。

**【加藤学校教育課参事】** 4 ページの下段をご覧ください。

本市 21 校、小中学校ごとに見てみますと、全国平均を上回った学校数が書かれています。平成 28 年度では国語 A が 9 校、国語 B 5 校、算数・数学 A 8 校、算数・数学 B 4 校、全国平均を上回っています。昨年度と比較しまして、国語 A について 5 校から 9 校と大幅に増えております。課題としましては、A 問題よりも B 問題の方で全国平均を上回る学校数を増やしていけないと考えています。

次に 5 ページをご覧ください。正答率ごとの分布グラフです。

横軸が正答数で右に行くほど正答数が高くなります。縦軸が児童生徒の割合となります。5 ページには小学校のグラフが書いてありますが、国語 A・算数 A については、下位層の子ども達の割合は全国とあまり変わっておりません。基礎基本は定着しているところですので。課題については、この身に付けた基礎基本・知識を活用する力、B 問題に活用していく力が必要になってくると思います。授業の中や家庭で、思考・表現力を問う問題をやっていく必要があると考えているところです。

次に 6 ページをご覧ください。

中学校のグラフです。数学 A については、下位の子が非常に多くなっています。これは、個人差が非常に大きいということが分かりました。今後各中学校において、少人数での指導、複数教員による TT 指導を行って、各能力に応じたきめ細かい指導が必要ではないかと考えています。

1 ページに戻ってください。

この学力と同時に、児童・生徒への質問紙というのがあります。

ここ数年間同じような傾向にあるものを4点示してあります。

1番目が、テレビ・ゲーム・スマートフォンなどのメディアに費やす時間が全国・県と比べると低いということ。

2番目が、読書が好きである子どもたちが多いということ。

3番目が、学校の宿題・復習についてはよく取り組んでいます、自分で計画を立てて学習を行う児童・生徒が少ないということ。

4番目が、中学校において、学級全体で達成感を味わった経験が、県・全国よりも大幅に低いということです。

学力と同時に、この児童・生徒質問紙からの学力との相関関係を調べて、学力の向上に努めていきたいと考えています。以上です。

【本田市長】

ただ今の説明につきまして、御質問はございませんか。

【松原委員長】

学校を回るんですけど、あの先生がおいでになったら職員室が変わったとか、子どもたちが明るくなったという学校があったりそうでない学校があったりということがあります。或いは先生方の話を聞きますと、この一年でここを上げますからとか、こうしますからとか、言い切った先生は必ず結果を示してくれるという気がします。そういう意味で、やはりトップである校長先生の熱意によって、学校のメリハリが変わると思います。どの先生もすばらしい先生に、ある一線まで引き上げていただきたいと思います。

【樽野委員】

この結果の考察を、それぞれの学校でどれくらいして、先生方に伝えられているのか疑問に思うところがあります。例えば、先生が異動されたりして教科担任が変わると、成績とかに確実に現れてくるわけですから、そういった指導とかが徹底されているのかなと思います。教職員全体で取り組んでいければ、次回の結果が見えてくるのではないかと思います。それぞれの学校で結果の考察を十分にやってもらいたいと思います。

【福田学校教育課長】

二つ御意見がありました、一つ目は教師の資質向上のために、管理職のリーダーシップがどのように発揮され、それがどう反映されていくのかということですが、大変重要なことであると私どもも思いまして、年度初めに各校長と面談をいたしました。その中で、一般的な今年度のやりたいことを言っただけという手法ではなくて、より具体的に例えば、授業であればどんな授業を作らせたいのか。そして先生が5人居られれば、5人の先生方のそれぞれの授業作りの課題をどのように捉えられていて、そして、校長が教

員と面談をするときに、それをその先生方にはっきりと意識をさせる。そのうえで授業力向上を目指してもらう。ですので、学校経営案の中により具体的な方法で書いていただくように改めました。また、それに基づいて教育長面談をさせてもらうということを4月から行っております。その結果等においては、今後見えてくると思われれます。それから中間申告の面談も既に終わりましたが、当初の具体策や目指すものについての進捗度は今何%なのか。徹底度はどれくらいなのかを聞いたうえで指導を行う、大方の校長先生は50%から60%だということでしたので、あと半分でどうするか、より具体的な策を取り入れたうえで、報告を求めたり指導主事が行ったときにいっしょに課題として挙げられた視点で指導をできるようにしたりしているところです。

それから、二つ目の結果の考察対策については、学校において温度差を感じましたので、本年度の結果が学校関係者に知らされてから、まず夏休み中に数値結果だけでもしっかりと職員に伝えるということ。そして、夏休みを使って内容の分析を行って、遅くとも9月上旬には全職員でその内容を共有すること。共有というのは、2学期からの指導に活かすように、具体的なものが見えるような対策を立てて示す、ということさせました。21校中、ほぼすべての学校がそれに近い形でしたが、実は学校によっては動きが遅かった学校がありましたので、遅かった学校については、直接学校長を呼んで、なぜそのような遅い状況になったのか、そこを改善するためにすぐにこういうことを行うようにと指示を出したりした状況もあります。

【本田市長】 教育長にお聞きしますが、率直に言って市の学力は向上してますか。

【和田教育長】 学力が向上しているかというはまだまだ十分ではないです。しかし、小学校を例にしますと、小学校は少しずつは伸びてきているという見方をしています。ですが、中学校の方は厳しい状況だと思います。それぞれ学校がありますので、学校の差、授業力にも大きな差があるようですので、その辺をどう改善していくのが課題だと思いますが、学力というのは取り組んですぐに芽が出るようなものではないと思います。だから今いろんな取り組みを行って、着実に伸ばしていく手立てをとっている訳です。全体的に見て、志布志の

学力というのは厳しい状況があるという認識は持っています。

【本田市長】

今の話の中で、時間をかけないと分からないということは当然でしょうけど、先生とか校長先生とかによって短期間に急激に変わるというのは有り得ると思います。そこで、本市でそのような現象を起こすにはどうすればいいのか。私の思いを教育長にお伝えするわけです。教育長はそれを受けて、皆さん方と協議をして、その結果を各校長先生に伝え、成果を出すための方策を提示されて実施をお願いするわけです。だけど、結果的には校長の裁量で努力がなされ、そこに居られる先生方の気持ちによって、結果としては左右されていると思います。だから、まだまだ私自身の思いを伝えることが足りないんじゃないかと、またそれを受けて教育長も先生方に伝えることが不足していると思います。教育委員会の先生方は特にそれが足りないのかなと、一丸となって取り組むことがなされていないのではないかと思います。やはりそういう思いが伝わっていないと感じています。みんな思いはあると思いますが、なかなか成果として出てこないのはなぜかと思っています。

【飯野委員】

家庭に帰ったときに子どもが、勉強をする体制ができている家庭とできていない家庭があると思います。環境はそれぞれで仕方ないところがあると思いますが、その中でもやる気のある子どもは勉強をします。そういう子どもを先生達が気付いてあげる。宿題を先生達が出されると思いますが、宿題も出しっ放しではなくて、それに対しての先生達のコメントなどがあれば、子どもの受け止め方も違ってくると思います。そういうのがノートの上でもあったら、勉強はもっと楽しくなると思うし、できなかったことでも先生が見ていてくれると思うことで、勉強をする気持ちを起こさせてくれると思います。そういうことで、子どもと先生との信頼関係を作ってもらえればとすごく思います。

【樽野委員】

校長先生から言われても、やはり現場の先生方が立ち上がらないと、学力向上には繋がっていかないと思います。それぞれの学校で、いっしょになってやっていくという雰囲気は校長先生を中心に作っていかなければ、伸びてこないと思います。少し時間がかかるのかなと思います。

【本田市長】

おっしゃるとおり、先生方が動かないと現場は動かないと思います。だから、先生方のやる気を引き出すためにどうするかというこ

とです。じゃあ、具体策は何なのと模索するわけです。私としては、教育環境を求められれば、設備面とか最大限必要であれば整えていきたいと考えています。だけど、現に平均点を上回るといったことになかなかならない状態です。

**【島津委員】** 市長のお気持ちはよく分かります。学力というのは結果の一つです。やったことの結果なので、やったことを変えていかないと結果は出てこないと思います。時間がかかる問題だと思いますし、とは言っても時間をかけると大事な児童たちの今後の将来にも関わってくる問題ですので、やはりどうにかしないといけないのはあるんですが、私はこの結果を踏まえて、いろんな策を講じるとなると、更に現場の人たちに新たな取り組みを追加することになると思います。そういう起きた問題に対する処理よりも、先ほどもあったように、根本的な原因を解決してあげたほうが、スムーズに組織運営というのは回ると思います。やはり、トップダウンでするよりも、教育大綱とかで決まっていることなので、学力向上プランは「揃える」というのがテーマだと思います。教育行政に携わるトップをはじめ、管理職が心を揃えているかということに、その原因があると感じています。実際、校長によって学校運営が変わってきている部分が見えますので、理想を高く掲げるとできないこともあります。最低限ここまでと下限を決めて、そこを揃えるようにしたら、結果的にいろんな枝葉が出てくる感じはしています。トップと管理職が意志の疎通が図れていないと一番問題だと思いますので、意志の疎通を図ることが根本ではないかなと思います。

**【本田市長】** おっしゃるとおりだと思います。はじめに言ったように私の思いが届いてないのかなと思います。皆さん方に私の思いが伝わっていない。だから前に進まないんです。

総合教育会議で私の思いを皆さん方に話をし、実践する形で教育委員会はどうしていくのか、協議してもらえば良い訳です。それで、私が一番言いたいのは学校は学力向上だということです。それは理解していただいていると思います。教育長に学力向上日本一を目指してくださいとお願いしているが、なかなか成果が見えてこない。じゃあ、どうすればいいのかという話なんです。

**【松原委員長】** たとえば、鹿児島市内だったら塾に通っている子が半分以上いますが、志布志市内の学校では二桁に乗る学校は多分ないと思います。



それくらいの実情で、足を運んで勉強をするんだという思いにはなっていないと思います。一昨日、志学教室に行ったんですが、60数名の子が来ていまして、参加している子どもたちは先生方からいろいろ聞いて、一生懸命取り組んでいました。あの子たちは学ぶという意識が多分にあると思います。志学教室では年間に50時間くらいの勉強ですが、そこから家庭でも勉強をするようになるということです。そういう子どもたちは、一年前よりも成績は伸びていると思います。そういう意味では、志学教室は送り迎えもするわけですから、もっと参加してほしいし、違った環境の中で勉強することで学力は向上すると思います。塾が少なければ志学教室に行ってもらう、そのために市は投資しているわけですから、このことに応えてもらう体制を構築していただきたいと思います。

【福田学校教育課長】 志学教室は現在114名が利用しています。4月からすると20名くらい増えてきています。毎回の出席率は60~70%くらいとなっています。

【松原委員長】 まだまだ全体の2割にも達していないと思います。志学教室を充実させることで、全体の底上げに繋がると思いますので是非取り組んでいただきたい。

【本田市長】 先ほども言ったんですが、志学教室は拡充なんです。各校区ごとに取り組めるように延ばしていきたいんです。だからコミュニティ・スクールなんです。その体制ができれば予算を出します。だから、皆さん方も是非、志学教室の推進をしていただきたい。それにはまず、それぞれの地域での方向を決めてもらえば、動きが見えてきて具体性が分かり、成果が出てくれば学力の向上に繋がる。それを理解してもらうためにも、まずは学校がしっかり理解していただいて、いっしょになって取り組んでもらう。そういう体制ができれば枠を広げて取り組んでいくことになるわけです。

この学力調査テストを見て、極めてこの地域はレベルが低い。だから志布志高校の偏差値が下がっている。志布志高校を上げていけないといけないと思います。

【樽野委員】 成績の良い生徒が市外に出過ぎではないですか。志布志高校や尚志館高校を魅力ある学校にして行かないといけないと思います。

【本田市長】 そうなんです。だから高校にも行政としてなにが必要ですかと相談しているんですが、要らないと言うんですよね。

【溝口教育総務課長】 校長先生も変わって、今度対策会議を開いて生徒確保の対策を協議しているところです。

【本田市長】 だから、そうなんです。校長によって対応が変わるのではないと思うんです。

【和田教育長】 中学から講師を呼んで、教室を開きましょうという提案について、前の校長は、学校ではたくさんやることがあるのでということで断られたところです。

【本田市長】 ちょっとでも向上させたいという思いがあれば、なにかしたいという思いがあるはずです。この地域の学力を上げるために、総体的に学力が上がってくれば子どもが良くなるんですよ。授業に付いていけなくなって学校が面白くなるんです。学力向上が大事なんです。そうすれば素行も良くなるし、友達とも仲良くなるし、学校全体も良くなる。そこはみんな理解されていると思います。

だから、この調査の結果は貴重な判断材料なんです。この結果を上げようとするれば、前年度の対策をしっかりとやって、少なくともテストの結果を上げるために一年間しっかりと基礎学習をしないと成果は現れない。そこを真剣にやらなければならない。そういうことを、いつも学校現場の先生方がそういう気持ちになってもらうために、どうすればいいのかということ、いっしょになって考えて行くことだと思います。私たちは先生たちの応援団、校長先生の応援団なんですから、という思いです。

【和田教育長】 教育委員会としてもいろいろな施策を展開しているわけですが、私自身としては、いろんな観点から総合的に学力向上には取り組んでいかないといけない思いを持っております。一つは校長のリーダーシップで、学校の組織力を高め、学力向上や生徒指導について学校が同じ方向でやっていきましょうという体制をどう作るのかということ、2つ目はなんといっても毎時間の授業を通して、教師の指導力をどう高めていくのかということ、3つ目は子どもたちへの学習活動の支援をどうするのかということ、タブレットの導入とか志学教室の取り組みなど、他のところのないような支援をもらっていること、4つ目に家庭地域の理解・協力を頂かないといけないので、学力というのは学習意欲が付いた学力でないと意味がない。その場だけのものではないわけで、自分で学ぼうとする意欲を高めて行くことが大事だと教えています。今日いろいろと意見をい

いただきましたので、もう一回そういうことについて、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

【本田市長】 志布志市は、学力向上の伸び代がたくさんありますので、しっかりと取り組んでいただきたい。

【本田市長】 全国学力・学習状況調査の結果分析については以上でよろしいでしょうか。それでは、次の議題に参ります。

【福田学校教育課長】 2番目の大学と連携したタブレット端末の活用について、説明をいたします。2ページをお開きください。

今回の学力の実態を受けて、各学校では1から8までのことをお願いをし、私たちもこのことに取り組んでいきます。それから、教育委員会としまして1から4まで書いてありますが、こういうことを中心に取り組んでいきたいと思う中で、大学と連携したタブレット端末の活用について説明をいたします。

資料の10ページからでございます。大学との連携のあり方についての考え方について、整理をしてみました。内容については、十分に説明する時間はありませんので、ご了承いただきたいと思えます。11ページです。大学と連携をした際のメリット・効果については図示しております。大学と連携することによって、志布志市にとって、特に児童生徒にとってはどうなのかということで、知識の習得の場、豊かな学びの機会の場になり得ていくのではないかと考えています。大学が持ち得ている知的財産・専門的なものを活用させていただくことによって、児童生徒が現在必要としているような様々な支援サービスを与えることに繋がっていくのではないかと考えたようなことを念頭に置きまして、具体的なことを考えていきたいというところでございます。

12ページをご覧ください。8月30日に鹿児島大学に出向きまして、教育学部部長・工学部部長に御挨拶申し上げ、本市が今後お願いしたい内容についてお話をさせていただいたところです。それを受けまして、教育委員会でも内容をいろいろ整理をしております。鹿児島大学教育学部との連携内容の一番目、大学教員による教育研修等の講師、つまり、大学の教官との繋がりをつけて専門性を本市の教育に活かすという視点でございます。これまでも豊かな学力の定着に向けた検討委員会、志を高める教育推進協議会、これは主に道徳教育についてです。それから、いじめ問題対策連絡協議会の委

員に3名の大学の先生方になっていただきておりまして、これについては引き続きお願いをして参りたいと考えております。

新たな取り組みについては、3つ書いてございます。先ほどらい、各教師の授業力をどう向上させるのか、そこに課題があるのではないかと意見をいただきました。私たちもそう考えております。ですので、授業づくりの専門的な知見からアドバイザーとなっただいて、来年度重点的に教師指導していただきたいと思っております、高谷哲也准教授に本市のアドバイザーとして協力いただけないかと考えております。

2つ目です。ICT教育推進アドバイザー派遣です。山本朋弘講師です。この先生とは、すでに10月21日に大学に出向きまして具体的な話を進めてきております。内容としましては、12月の情報教育担当者研修会の折に、タブレットを使った授業のより効果的なあり方についての講話をいただくことになっております。それからモデル校がありますが、その学校と大学とを遠隔操作で繋いで授業サポートができないか。それから、小中学校の休み時間等を使って大学の学生と遠隔操作で補充的な支援ができないか、今その模索をはじめたところです。

3つ目、研究事業等について 大学の先生等に講師に入っただくことを考えております。もう一つは、学生の力を借りるという内容です。国語、算数・数学、英語の授業の支援に鹿児島大学の学生が夏季休業中であり、9月を活用させていただいて、大学生をこちらに派遣していただき授業サポートをしてもらう。併せて、先ほどらい子ども達の学習意欲の話がでましたが、目指す先輩の姿とか学ぶ学生たちの話を聞くことによって、自分もそう在りたいと思う、つまりキャリア教育の視点にたった講師を大学生にお願いできないだろうかということも考えております。また、土曜学習教室、それから夏休み学習教室への学生の協力依頼もしているところです。大変良い感触をいただけてますので、今後は予算措置の面とか大学の窓口にどの先生がなっただけか、実際大学生の派遣が何名程度になるのか、そういうところを詰めていきたいと思っております、今月末にも出向いて連携協定に向けた協議をさせていただく計画です。

それから、生涯学習課の事業についても、サポートをもらうよう

な話を進めていきたいと思っているところです。

今後は13ページに書いてありますとおり、課題となっていることを一つずつ取り組みながら、予算の件や実行までのロードマップに沿った形で進めて、実現をさせていきたいと考えておりますので、御指導をよろしくお願いいたします。

【本田市長】 ただ今の説明につきまして、御質問はございませんか。

【飯野委員】 この間、教育週間で森山小学校と田之浦小学校に行ったときに、遠隔操作で授業を進めて、いつもは子どもが一人だったけど、他の人の意見を映像としてでしたけど聞けて、また、他の先生の説明も聞けてすごく喜んでいました。すでにそういうことが始まっているんだと私も知らなくて、子どもが喜んで授業に参加しているのを聞いてすごく良かったと思ったところでした。また、潤ヶ野小学校も今度参加されることを聞いて、とても良いことだなと思いました。

【梶原学校教育課参事】 補足して説明いたします。

今ありましたとおり、鹿児島大学の山本先生と話をさせていただいて、アドバイザーとしていろんな助言をいただくようお願いをしてきたところです。遠隔授業につきましては、田之浦小学校を中心に動いております。県のシステム「つらネット」という遠隔システムがありますけど、そちらに入って、田之浦小学校と森山小学校をメインに、あと伊崎田小学校と田之浦小学校とを繋いでの活用もあります。ただ、通信環境状態のモデル期間ということで、いろんな事を試しながらやっていきますが、なにが一番効果的か、いろんなソフトを使いながら取り組んでもらっているところです。併せまして、山本先生の方から、志布志の設備面、ICT 機器・タブレットを含めて鹿児島県の中でも最先端の地域であると認められるような取り組みをしているのではないかとということです。あとは我々のPR が足りないということで、日本教育工学協会というところが行っている、学校情報化認定というのをまず取得しなさい。ということで、それを各学校に下ろしながら、今田之浦小学校・森山小学校を初め 申請に動いております。その申請をしていくと情報教育の先進地域ということで国に認められて、もっといろんなところでPR ができアピールできるのではないかと。それが、先生たちの授業の意識向上にも繋がっていくのではないかと。というアドバイスをいただきましたので、そのようなことも取り組んでいくところです。

【和田教育長】      こちら側にもメリットがあり、大学側にもメリットがあるということ  
ことで、双方にメリットがあるので取り組みやすいと思っております。

【本田市長】      鹿児島大学は志布志市と距離が相当あるので、遠隔を活かした取  
り組みということで、全国的なモデルになるのではないかと思います  
ので、是非取り組んでいただきたいと思います。

【飯野委員】      学生はどれくらいの人数を考えてられるんですか。

【福田学校教育課長】      そこも含めて、まず大学側と話をしてみないとなんとも言  
えないところですが、できれば10人ほど来てもらって子ども達と交  
流をしていただければ、違った意味で良い成果も得られるのかなと  
も思っているところです。そこは、教育総務課や生涯学習課とも連  
携を図りながら取り組んでいきたいと思います。

【本田市長】      それでは、次の議題に参ります。コミュニティ・スクールについ  
て説明をお願いします。

【福田学校教育課長】      資料の14ページをお開きください。本年度はモデル校3校  
に、コミュニティ・スクール事業に取り組んでいただいているところ  
です。11月までにそれぞれの学校では、3回ほど協議会を開催  
しております。2回目の協議会では、合同での先進地学校2つを  
視察しております。今後モデル3校の学校運営協議会、連絡会を  
設置したいと考えております。その場には、本市のすべての学校に  
参加をしていただきまして、モデル校の取り組み状況等や成果・課  
題について情報交換を行って、今後の推進の後押しにしたいと思っ  
ております。

10月の校長研修会で、次年度の新規導入校について説明をし、  
各学校の意向を集約したところですが、29年度からコミュニテ  
ィ・スクールの導入をしたいと思っている学校が10校弱だったか  
と思います。他の学校も30年度には行いますので、30年度まで  
にはすべての学校が、いわゆる学校応援団としての強力なサポー  
ターになっていただくべく、コミュニティ・スクール事業に入れる見  
通しが立ったところであります。詳細については、福留係長が説明  
をいたします。

【福留学校教育課参事兼指導係長】      本年度から3校に、コミュニティ・スクール事  
業に取り組んでいただいております。若干準備期間が短かったもの  
ですから、これまでの学校評議委員会と学校運営協議会との違いと

か、メンバーの人選とかに時間を取られたこともございますが、本年度に入りまして委員の方々は少しずつ研修を進めながら、各学校それぞれの運営協議会のあり方とはどういうことかということで進めていただいております。ほぼ3回会議も終わりました、それぞれ活動が出されておりますが、成果と課題についても見えつつあります。それぞれ各協議会で活動いただいておりますが、他の学校の様子はどうなのだろうか、といったところからお互い研修の場を設けられないかといったところもありますので、今後、3校の協議会が集まって、お互い横の連携もしながら、来年度に向けた取り組みを考えていこうと話をしているところです。先ほどもありましたが、来年度是非取り組みたいという学校もほぼ出てきました。小学校が4校、中学校が4校でございます。中学校につきましては、現在志布志中も取り組んでいることを考えれば、来年度からは全中学校でのコミュニティ・スクール導入が予定されているということになります。30年度からは全校取り組みたいということですので、今後予定している学校もいっしょになって連絡会・勉強会をすることによって、学校運営協議会というものがどういうものなのか、お互い学びながら推進していきたいと考えております。運営協議会の委員の方々は、随分と勉強をされてきて、いろんな思いが高まってきておりますが、なかなか他のPTAの方、地域の方への広がりが少ないということが課題でありますので、広報周知等も今年度後半、しっかりとやっていきたいと思っております。

これが、小中一貫とか学力向上、それから各学校の教育課題にしっかりと対応できるような学校運営協議会になるように、教育委員会の事務局としても働きかけをしていきたいと考えているところです。

【本田市長】            なにか、御質問がありましたらどうぞ。

【飯野委員】            この間、原田小学校に行きましたら、体育館入口の横の部屋を学校運営協議会室に設けてあって、PTA会長が辞めたあとも次の人に託すときに困らないように写真を撮られて、会の流れを明確に展示してあったので、すごいなと思ひまして、これは他のところも参考にされたら良いとすごく感じました。PTA会長さんの意気込みがすごく感じる部屋でした。あんな部屋だと普通の保護者の方も気軽に入ることができるのでとても良い場所だと感じました。

【樽野委員】 この委員の方々の中で、会長・副会長といった役職は作られてないのですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 現在のところ、会長というのは置いていませんが、そういった役職も必要ではないかと思っております。とりあえず、協議会の中で互選でいいので代表者を決めていただきながら進めていきたいと思えます。

原田小学校の話ですが、視察の成果の現れだと感謝しているところです。そういったことを他の学校とも情報共有しながら、良いところを取り入れてお互いが学び合いながら、それぞれの学校の良さを取り入れられるよう横の繋がりを図っていきたいと思えます。

【樽野委員】 坊津学園は、運営委員の方が何名いらっしゃるんですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 合計で10名ほどだと思います。その中に、お世話係みたいな方もいらっしゃるの、そういった役割も必要なかと思えます。

【樽野委員】 運営委員の中で役職が決まってくると、連絡のとり方とかが上手くいくと思えますので、是非、代表者を決めていただいて、その中で協議を進めていってほしいと思えます。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 実際、坊津学園も毎月1回協議をされていますので、参考にしながら取り組んでいきたいと思えます。

【島津委員】 青年会議所やロータリークラブといったいろんな団体があると思えますが、そういう団体も地域のために活動をしていますので、そういった団体にも、今後こういう取り組みをしたいとか、具体的にこういうところで協力をもらえたらと投げ掛けをされると、コミュニティ・スクールについてのPRにもなると思え、地域との連携を図れると思えますので是非声をかけていただきたいと思えます。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 学校によりましては、運営協議会の中にいろんな組織を作りまして実際取り組んでらっしゃいました。志布志につきましても、そういったことを考えて本年度取り組みをはじめているわけですが、なかなかやりたいことをできていない状況もありますので、そういった方々の協力をいただきまして取り組んでいけるように働きかけをしていきたいと思えます。

【本田市長】 学校はいろいろと課題が多いですので、地域の方からも働きかけをしていただければと思えますので、是非応援をお願いします。

【本田市長】 それでは、次の議題に参ります。小中一貫教育の取組状況と今後



について説明をお願いします。

**【福田学校教育課長】** 小中一貫教育の取組状況と今後について説明をいたします。資料の15ページをお開きください。この意向調査結果は中学校区ごとにまとめております。伊崎田中学校区におきましては、小・中学校両校の校長先生が導入を考えておりまして、10月19日には両校長から現状の聞き取りを行い、今後の進め方等について協議をさせていただいたところです。そして、11月6日日曜日に、伊崎田地域の関係者、自治会長さん、自治会の役員の方々、40名を越えるの方々に対して説明をしたきたところでした。説明が終わった後、本事業について、賛成か反対かを伺ったところ、すべての方が賛成だという返事をいただいたところです。今後は、12日土曜日に伊崎田小学校及び伊崎田中学校の保護者に対する説明を行いまして、保護者の立場で小中一貫校についての思いや意向を聞かせていただく予定にしております。それらを総合的に集約したのちに事務局でまとめまして、12月中旬には臨時の教育委員会を開催し、教育委員会としての小中一貫校の先行するモデル校について、決定する運びにしていきたいと考えているところです。

16ページには、そのスケジュールを付けております。また、長期的には17ページにお示しした資料です。今後、先行するモデル校を決めましたら、小中一貫校教育推進協議会を立ち上げ、具体的な作業に係りたいと考えております。

**【本田市長】** なにか、御質問がありましたらどうぞ。

**【松原委員長】** 伊崎田小学校の児童数が少なくなることが心配されるところであるが、先進モデル校としてスタートした後に、中学校区の門口を柔軟に少し広げて、子どもたちが減少しないような取り組みも必要ではないかと思えます。

**【福田学校教育課長】** 教育総務課とか教育委員会で今後検討をして、進めていきたいと思えます。

**【溝口教育総務課長】** 学校規則には入っていないところです。そこをどうするのか検討していきたいと思えますが、他の学校にも影響がありますので、規則の改正も含めて検討をしていきたいと思えます。

**【和田教育長】** 義務教育ですから、本来ならば志布志市全体が小中一貫教育であれば、保護者平等の教育を受けられるわけですが、伊崎田小中学校をモデル校にするということは、保護者としてみれば、自分たちの

ところもやってほしいとか、そういった状況も考えられます。モデル校としてスタートする以上は、志布志市全体の保護者にも是非行かせてみたいと思う保護者がいたら、受け入れる体制にして方が良いと思っています。

【溝口教育総務課長】 生徒が偏った場合に、教室の問題とかがあり、すべて受け入れられるかという問題が出てくると考えます。ですので、全体のバランスも考えないといけないと思います。

【飯野委員】 小中一貫校を導入するという考えで意見を言ってますが、もし伊崎田の方で小中一貫校には通わせたくないという保護者がいて、他校に通わせたいと思われる場合もあると思います。そういった場合は、生徒数も少なくなるということも考えられますので、旧有明町で一つの中学校にするとか、そういう選択肢は残さないということなのか。保護者の希望があればそういう方向もあり得ますという場合もあるのかと思ったところです。

【本田市長】 現実的に、現在部活動で他校に通っている子がいますので、そういった方向になるのではないかと思います。

【樽野委員】 市長としては、学校の合併ということは考えていらっしゃらなかったのですか。

【本田市長】 合併という考えもあるんですが、地域性を考えたときに場所をどこにするとか、難しい問題があるので、ハードルが高いと感じているところです。

【飯野委員】 志布志中が統合するときに、有明地区もアンケートをされましたが、保護者の方は、今は考えていないという意見だったのですが、あれから数年経ってますので現在はどうなのかなと思います。

【本田市長】 今のところはそういった構想はないところです。

【和田教育長】 先日の自治会長の方々との話し合いの中で、ある方が、このまま行くと人数が増える可能性があるのか、増える見込みがないのであれば取り組む意味がないのではないかと言われました。私としては、伊崎田小中学校が小中一貫校にするにあたっては、伊崎田小学校と中学校をそのままいくのか、統合という形をとっていくのか、それとも今回提案した小中一貫校をしていくのか、この3つの選択肢があると思います。その中で、統合の問題については、今のところすぐにできるような状況ではなく厳しいところがあると考えています。

今のままで良いというのではなく、何か対策をとって一步踏み出していく、伊崎田中学校地域の活性化のために地域をあげて取り組んでいただく、という選択肢を教育委員会としては考えていますが、それに対してどうですかと聞き返したところでした。今の状況を見ると簡単には児童生徒の増加は見込めない状況があるので、何か手を打って魅力ある学校を作っていくことが必要で、その一つの方法が小中一貫校であると話をしたところでした。

でも、今回の小中一貫教育については、飯野委員が言われたように、統合はどうなったのかということは必ず出てくると思います。

【本田市長】 統合については、議会でも答弁しているとおりに、現在では考えておりませんということです。小中一貫教育の導入に取り組むということで、アンケートの結果を基に伊崎田でモデルとして取り組んで、その成果を見てもらうということになると思います。

【本田市長】 それでは、小中一貫教育については教育委員会で取り組みをしていただくということで、次に（５）その他、何かございますか。

【本田市長】 それでは、無いようですので、以上を持ちまして協議を終了いたします。

○ その他

【岡崎総務課長補佐】 それでは、会次第５のその他ということでございますが、協議事項以外に皆様方から何かございますか。

【本田市長】 先日、東九州自動車道の杭打ち式が香月小学校でありまして、そのときに、三反園知事が学校のトイレを使用されて、ここの小学校のトイレは臭いですねと言われました。このことについて小学校の方で調べてもらいました。そしたら回答がきまして、トイレ掃除については毎日掃除時間に掃除をしている。１、柄つきの束子で月曜日から木曜日までトイレ洗浄洗剤マジックリンを月１本程度使って掃除をしている。床はほうきではいている。２つめに、ホースを使って便器及び床を洗い流す。トイレ掃除担当の職員が付いて清掃指導を行っている。それから、トイレの使用については、１つめに、便器に向かって狙いを定め回りに飛び散らないように指導している。特に低学年に繰り返し指導をしている。２つめに、窓明けや換気扇を回して換気に努めている。という回答がきました。市内の小学校中学校についても、ほぼ同じような形で掃除をされていると思いま

す。

このことについては、しっかり掃除をやっているということは、知事に伝えたいと思います。

また、洋式トイレが少ないですねとも言われておりました。それについては、課題だと思います。

【溝口教育総務課長】 現在、洋式トイレは小学校で20%ほどだと思います。予算の関係もありますので、できる範囲で対応していきたいと思います。

【飯野委員】 ある小学校に行ったときに、今は家庭でも洋式トイレで、押さなくても流れる。行けば蓋が開く。だから、小便も流さないでそのままの子が居る。という話がありました。そのため、1学期はトイレの使い方の話をしました。と聞いたばかりでした。

洋式があった方が良くと思いますが、和式も教えないといけないと思い、いろいろ考えたところでした。

【本田市長】 市としては、順次洋式トイレを増やしていきたいと思います。

【岡崎総務課長補佐】 他にないでしょうか。よろしいでしょうか。

○ 閉会

【岡崎総務課長補佐】 それでは、皆様御起立をお願いします。

これを持ちまして、平成28年度第2回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。一同礼。

午前12時00分 閉会